

# 寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchū Danwakai

## 目次

並木 彬雄	:	埼玉県 of ヤガ科 (VIII) . . . . .	475
		・ 夏期宿泊談話会のお知らせ . . . . .	478
新井 裕	:	樹陰下におけるサラサヤンマの生態 . . . . .	479
巢瀬 司	:	北本市における6月下旬の蝶 . . . . .	483
———	:	クリの花で吸蜜していた蝶 . . . . .	484
———	:	オオイタドリの花で吸蜜していた蝶 . . . . .	484
松井安俊・松井英子	:	奥秩父・川又で採集した蛾 (2) . . . . .	485
牧林 功	:	オオチャバネセセリの灯火への飛来 . . . . .	486
加藤 輝年	:	ヒメキマダラヒカゲの水浴行動の一例 . . . . .	487
碓井 徹	:	埼玉県の蝶に関する覚え書き (6) . . . . .	488
牧林 功	:	ヒメセアカフルカの出現期 . . . . .	490
市川 和夫	:	マエシロモンキノカワガの最北記録 . . . . .	490
加藤 輝年	:	吾野駅付近でウラクロシジミの生息地 . . . . .	491
		・ 訂正 7件 . . . . .	491
		・ 「埼玉の蝶」出版計画 第2報 . . . . .	492
		・ 金曜セミナーの報告 . . . . .	494
		・ 蝶類分布図係より . . . . .	494
		・ 会報 . . . . .	495
		・ 編集後記 . . . . .	496
		付録	





## 埼玉県のヤガ科 (VIII)

並木 彬雄

シタバ亜科 Catocalinae (No.39のp.449 より続く)

68. ルリモンクチバ  
大洞川上流 (1♂ 23-VI-1974)
69. コウンモンクチバ *Blasticorhinus ussuriensis* BREMER  
鳩ヶ谷市、浦和市、大洞川上流で、7月中下旬及び8月中旬に記録がある。
70. タイワンキシタクチバ *Hypocala rostrata* FABRICIUS  
川口市 (1♂ 18-V-1968 大島 進一)、志賀坂峠 (1♂ 26-V-1974)  
栃本 (1♂ 6-IX-1970)、三峰山 (7♂ 14-IX-1969, 1♂ 4-X-1964)、三国峠 (1♂ 16-VIII-1974, 1♂ 1♀ 7-IX-1975)
71. ムーアキシタクチバ *H. moorei* BUTLER  
三国峠 (1♂ 3-VIII-1975)
72. ウズマクチバ *Dinumma deponens* WALKER  
川口市 (1♂ 21-IV-1961 大島 進一)、顔振峠 (1♂ 3-V-1970  
鶴巻 照夫)、三峰山 (1♂ 5-VII-1964)
73. ヒメムラサキクチバ *Diomea cremata* BUTLER  
川口市 (1ex. 23-V-1964, 2♂ 16-VII-1973)、浦和市 (1♂ 19-VII-1969)
74. マエヘリモンクチバ *D. jankowskii* OBERTHÜR  
志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、7月上旬中旬及び9月上旬に記録がある。
75. マエジロクチバ *Hypostrotia cinerea* BUTLER  
浦和市、長瀬 (動物誌)
76. ネジロフトクチバ *Serrododes campana* GUENÉE  
浦和市大門 (1♂ ? 大島 進一)、三国峠 (1♂ 7-IX-1975)
77. シャクドウクチバ *Araeognatha nubiferalis* LEECH  
浦和市、名栗鉾泉、向平、宝登山 (動物誌)
78. ソトジロツマキリクチバ *Arytura musculus* MÉNÉTRIÈS  
浦和市 (1♂ 25-VIII-1974, 1ex. ? -1973 大島 進一)
- 79.\* オオトウアツバ *Corsa otoensis* MARUMO  
川口市戸塚 (1♂ 12-VI-1966)
80. ウンモンツマキリアツバ *Pangrapta trimantesalis* WALKER  
浦和市、大宮市、所沢市、寄居町、宝登山、志賀坂峠で、5月中旬より7月上旬までの記録がある。

81. シロモンツマキリアツバ *P. umbrosa* LEECH  
 定峰峠 (1♀ 20-VI-1971)、志賀坂峠 (1♂ 1-VII-1973)、  
 三峰山 (1♂ 5-VII-1964)
82. シロツマキリアツバ *P. porphyrea* BUTLER  
 宝登山 (1♀ 7-VI-1970)、三峰山 (1♀ 5-VII-1964, 1♀ 17-VIII-1969)
83. ミツボシツマキリアツバ *P. vasava* BUTLER  
 志賀坂峠 (1♂1♀ 1-VII-1973)、大洞川上流 (1♀ 23-VI-1974)
84. キモンツマキリアツバ *P. flavomacula* STAUDINGER  
 川口市戸塚 (1♂ 23-V-1970)、所沢市狭山湖 (2♂ 20-VI-1970)
85. ツマジロツマキリアツバ *P. albistigma* HAMPSON  
 所沢市、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流、三国峠で、6月下旬より8月下旬までの記録がある。
86. リンゴツマキリアツバ *P. obscurata* BUTLER  
 川口市、鳩ヶ谷市、浦和市、大宮市、宝登山、三峰山で、5月中旬より9月上旬までの記録がある。
87. マエモンツマキリアツバ *P. costinotata* BUTLER  
 浦和市、所沢市、宝登山で、6月上旬より8月中旬までの記録がある。
88. マンレイツマキリアツバ *Polysciera manleyi* LEECH  
 栃本、三峰山、大洞川上流、三国峠で、5月中旬より9月中旬までの記録がある。
89. シロテンツマキリアツバ *Amphitrogia amphidecta* BUTLER  
 栃本、志賀坂峠、大洞川上流で、5月下旬より9月上旬までの記録がある。
90. ホソツマキリアツバ *Stenograptia stenoptera* SUGI  
 寄居町秋山 (1♂ 20-VI-1971)、志賀坂峠 (3♂ 1-VII-1973)
91. トビフタスジアツバ *Scedopla mollis* BUTLER  
 川口市、浦和市、大宮市、所沢市、正丸峠、定峰峠、志賀坂峠、三峰山、三国峠で、4月下旬より8月中旬までの記録がある。
92. ウスマダラアツバ *S. diffusa* SUGI  
 三峰山 (1♂ 12-V-1963)、三国峠 (1♂ 15-VIII-1971)
93. キズマアツバ *S. regalis* BUTLER  
 川口市、所沢市、定峰峠、宝登山で、5月中旬及び6月上～下旬の記録がある。
94. チャイロアツバ *Britha inambitiosa* LEECH  
 志賀坂峠 (1♂ 1-VII-1973)、三峰山 (2♂ 12-V-1963)
- 95.※ セニジモンアツバ *Paragona cleorides* WILEMAN  
 大洞川上流 (2♂ 21-VII-1974)

96. フタスジエグリアツバ *Ectogonia opalina* BUTLER  
川口市、所沢市、志賀坂峠で、6月中旬より7月上旬に記録がある。
97. シロズアツバ *E. butler* LEECH  
川口市、鳩ヶ谷市で、5月下旬及び9月上旬の記録がある。
98. キマダラルリアツバ *Lophomilia polybapta* BUTLER  
川口市、浦和市、鳩ヶ谷市、所沢市、宝登山で、5月上旬より6月中旬までの記録がある。
99. ミカドアツバ *L. flaviplaga* WARREN  
栃本、志賀坂峠、三峰山で、6月上旬より9月中旬までの記録がある。
100. ニセミカドアツバ *L. takao* SUGI  
浦和市大門 (1♂ 6-IX-1969)
101. ソトキイロアツバ *Oglasa bifidalis* WALKER  
三峰山、三国峠で、5月中旬より6月中旬、及び8月中旬の記録がある。
102. キンスジアツバ *Colobochyla salicalis conerea* BUTLER  
川口市 (1♀ 26-IV-1968, 1♂ 18-IV-1964)
103. マエテンアツバ *Rhesala moestalis* WALKER  
大輪 (1♂ 9-XI-1969)
104. アトヘリヒトホシアツバ *Plecoptera insignita* WILEMAN  
所沢市狭山湖 (1♂ 20-VI-1970)、志賀坂峠 (2♂ 26-VIII-1973)
105. テンクロアツバ *Rivula sericealis*  
川口市、鳩ヶ谷市、浦和市で、5月中下旬、及び9月下旬より11月上旬までの記録がある。
- 106.\* マエシロモンアツバ *R. carvifera* WALKER  
所沢市狭山湖 (1ex. 20-VI-1970)
107. フタテンアツバ *R. auripalpis* BUTLER  
川口市、浦和市、所沢市、寄居町、定峰峠、宝登山で、5月上旬より6月下旬、及び10月上旬の記録がある。
108. スジモンアツバ *R. confusa* WILEMAN  
浦和市、定峰峠、志賀坂峠で、7月中旬より9月上旬までの記録がある。
- 109.\* ヒメエグリアツバ *R. angulata* WILEMAN  
川口市 (1♂ 27-VI-1970)、浦和市 (1♀ 13-VIII-1966 大島 進一)
110. クロテンカバアツバ *Mimeugoa nigropunctalis* WILEMAN  
所沢市狭山湖 (1♂ 20-VI-1970)、定峰峠 (1♂ 18-VII-1971)
111. キボシアツバ *Paragabara flavomacula* OBERTHÜR  
川口市、浦和市、所沢市、寄居町、志賀坂峠、三峰山、大洞川上流で、6月中旬より8月中旬までの記録がある。



## 樹陰下におけるサラサヤンマの生態

新井裕

サラサヤンマは丘陵地や低山地の湿地に生息する小型のヤンマで、近年生息地の消失によって減少傾向が著しい種である。

本種の生態については金沢市においての武藤明博士の詳細な研究があり、それによると、成熟した成虫は湿地の上空に4~50 mの飛翔型のなわばりを形成して雌を待つが、暑い日の日中には林内に入って樹陰や小灌木の茂みで休息するという。一方、宮川(1982)は比企郡小川町の廃田において、林内に入ってもなお活動を継続する雄があることを見出し、これは暑さを避けるとともに雌との出会いを待つ一手段ではないかと考察した。

筆者は、秩父市内の小湿地においてサラサヤンマの生態を観察したところ、この湿地では雌雄共に樹陰下でのみ活動が見られ、そこで交尾と産卵が行われることが確認できた。

以下、観察結果の概要を報告する。

## ◎ 観察地の概要とサラサヤンマの活動場所 ◎

観察は、1982~1983年に埼玉県秩父市大宮にある雑木林に囲まれた小規模な湿地で行った。湿地内の水は雨水のみによって供給されているため、晴天乾燥の気象が長期にわたって継続すると完全に干上がった状態となる(新井1983)。

湿地の中央部は上方が開けた明るい水湿地となっており、周辺部は灌木の茂みがあつく窪地には水溜りができている。

サラサヤンマの活動が見られたのは、図で示したように、湿地の縁の小灌木の茂みに接して点在する水溜りに限られ、湿地の中央部の明るい場所には全く飛来しなかった。

このような水溜りの点在する場所は木漏れ日が射す薄暗い空間で、地上には落葉が5~10 cmの厚さでたい積しており、その下部は重粘土層となっている。水溜りの水は、晴天の継続によってしばしば干上ってしまうが、その場合、地表面は乾燥しても内部は湿り気を保っていた。

後に述べるように、水溜りの周辺で頻繁に産卵が行われたので幼虫の発見に努めたが、羽化殻を1頭得たのみで、生きている幼虫は見出せなかった。

## ◎ 成熟雄の行動 ◎

樹陰下の水溜りにおいて雄の活動が見られたのは5~6月で、早い季節の個

体は体紋が鮮明で若い成熟個体と思われたのに対し、6月下旬に見られた個体は体色からかなり老化が進んだと見られるものであった。

樹陰下への雄の飛来は、晴れた日や曇っていても時折晴れ間が見える日に限って認められたものの連日やって来る訳ではなく、同じような天候の日でも飛来しない日が少なくなかった。

武藤(1958)は、雄が林内に入るのは暑さを避けるためと推察しているが、今回の観察では比較的冷涼な日でも樹陰下への飛来を認めた。また、飛来時刻は正午前後のことが多いようであったが、午前10時にはすでにやって来ている場合もあった。

樹陰下の雄は、水溜りの存在する場所にある枯れ枝や灌木の茂みに懸垂して静止しており、静止位置は常に地上30cm以下の低い場所を選定した。静止中の雄は絶えず羽を小刻みに震わせており、人が接近したり、同種個体が飛来したりしない限り飛び立つことはなかった。静止雄に対して観察者が近付いて故意に追い立てると、雄は飛び上り地上5~200cmの高さを、時おり停止飛翔を混ぜながら数十秒~数分間飛び回ってから元の静止場所に静止し、一気に飛び去ってしまうことはなかった。しかし、何度も執拗に追い立てると、飛び立ってから停止飛翔を行き回数と時間が短くなって落ちつきがなくなり、ついには飛び去ってしまった。

なお、飛び立ってから飛翔の範囲は水溜りの大きさに比例するようであったが、概ね長径1~5m、短径1m前後の楕円状であった。また、水溜りへの雄の飛来は水が干上がってしまい、単なるくぼ地と化してしまった場合でも認められ、必ずしも水面の存在は必要ではなかった。

雄の近くに他の同種雄が飛来した場合には人が近付いた場合と異なり、猛スピードで相手に接近して上方に追いやり、その後、元の場所に戻って来てしばらく停止飛翔を伴う旋回飛翔を行ってから静止した。このように同種雄に対しては攻撃的な飛翔パターンが認められたものの雄同志の出合いは稀であり、隣り合った水溜りに定住する2個体間の干渉もほとんどなかった。これは、一たん樹陰下にやって来た雄はあまり飛びたつことがないため、雄同志が出合う機会が少ないためである。

### ◎ 交 尾 ◎

雌は産卵のために、雄が静止する樹陰下にやって来る。雄はそのような雌を発見すると交尾のために飛び立った。交尾行動は5例観察し、次のようなプロセスで行われた。

雌を発見した雄はいきなりつかみかかることなく、雌の下方でねらいを定め

るかのように停止飛翔を行ってから直線的に突進して雌を捕捉した。捕捉した瞬間に地上に落下することが多いが、すぐに連結態となって飛び上がる。その後地上1m前後の高さを4~5mの範囲で行きつ戻りつしながら速度を増しつつ飛びまわり、ついで10秒間程度移精を行った直後に交尾態となって一気に急上昇して樹上に静止した。武藤(1958)の報告では交尾は地上2~3mの高さで行われることが多いというが、筆者の観察では地上10~20mのかなり高い位置で行われた。交尾は15~30分で終了し、交尾を終えたカップルは連結態となってその場に2~3分間留まった後に、雌が連結態をふりほどくようにして飛び去った。雄は、雌が去った後も数分間その場に静止を続けてから水留りに戻ってきて2~5分にわたって停止飛翔を混じえた小旋回飛翔を行ってから静止した。

以上のように、本種は雌の捕捉場所の上方で交尾を行い、交尾後に雄が元の場所に戻ってくるのが特徴である。

### ◎ 産 卵 ◎

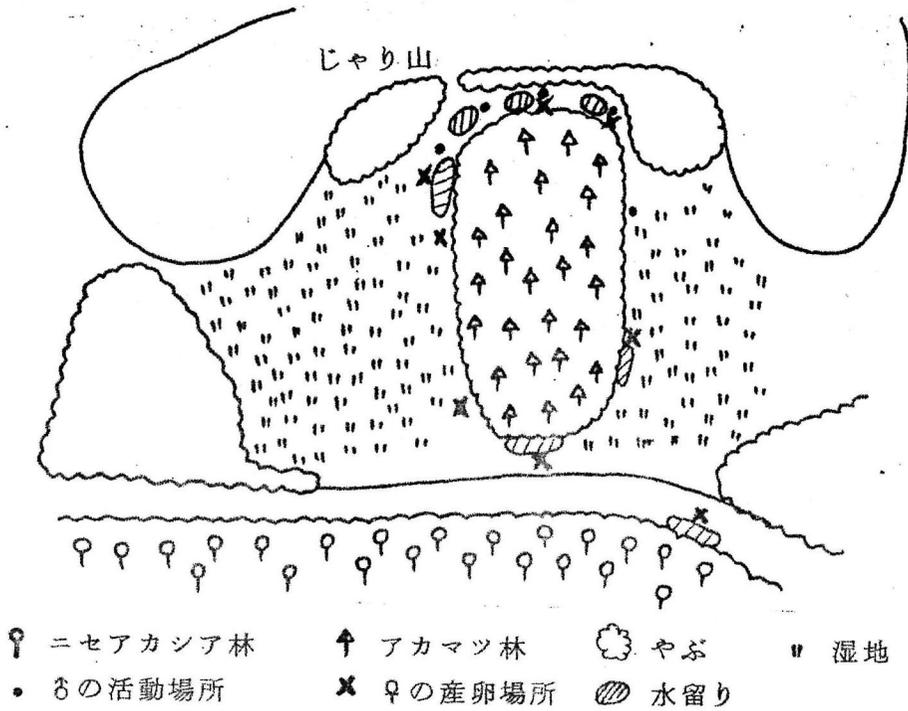
産卵はあまり天候の影響を受けないようで、晴れていても曇っていても見られた。産卵場所は図のように日当りの悪い樹陰下や、やぶの中であった。

産卵のために飛来した雌は、地上すれすれの高さでゆっくりと飛びまわって産卵場所を探し、適当な場所を見つけると静止して産卵管を突き立てる動作を繰り返した。

本種の産卵方式は「接泥静止産卵」とされているように、泥土上にも盛んに産卵管をつき差す動作を示すものの、泥土は産卵対象物としてはあまり適していないようで、産卵管を差し込んでも実際の産卵はあまり行われていないようであった。安定して長時間にわたって産卵を行うのは朽ちかけて湿った木片や木の根で、40分以上も産卵を続けた例もあった。また、黒色の物体も産卵対象として魅力的なようで、観察者のはいているゴム長ぐつや頭髮にも盛んに産卵しようとした。また、武藤(1958)の報告にもある通り、産卵にとって水面の存在は必要ではなく、むしろ水の溜っている場所は避ける傾向があった。

産卵中の雌を採集して人為的に採卵したところ、卵は産下後1日で両端が褐色を呈し、室内の常温下では27日間で孵化した。孵化虫は跳躍して水面にたどりつくものと思われ、卵を水面から4~5cm離れた場所においたところ、水中に前幼虫の脱皮殻と孵化幼虫が認められた。

孵化幼虫の形態は、他のヤンマ科幼虫と異って複眼が極めて小さく、腹部が細長い点を除くと、むしろトンボ科の種に似ていた。また、全体に白色でAnax属やAeschna属の孵化幼虫に認められるようなパンダ斑紋は存在しなかった。



図

以上の観察から、樹陰下の水溜りはサラサヤンマの繁殖場所となっており林内に入る雄は強い日射を避けるためというより、産卵場所で交尾のために雌を待つという、より積極的な意味を持つものと考えられる。

引用文献

新井 裕 (1983) , 干上がった湿地におけるトンボ幼虫の越冬生態、  
月刊むし, 146 : 15-17

宮川 幸三 (1982) , サラサヤンマ成虫の林間における行動記録、  
T O M B O , 25 : 32-33

武藤 明 (1958) , サラサヤンマの生態、T O M B O , 1 : 12-17

武藤 明 (1966) , サラサヤンマの生態 (2) 、生物研究, 10 : 10-15

(〒360 熊谷市桜木町 2-3-27 熊谷第2 公舎 402 号)

## 北本市における6月下旬の蝶

巢瀬 司

1983年6月21日14:00~15:30(晴)、北本市下石戸で採集、目撃した蝶の記録を報告する。

「目撃」と記していないものはすべて採集個体。また、各記録の中の汚損度記号は、①・・・新鮮個体、◎・・・汚損度中位の個体、●・・・汚損した個体をそれぞれ表わしている。

イチモンジセセリ	1♂ (①) 目撃
オオチャバネセセリ	1♀1♂ (①)
アゲハ	2♂ (①) 目撃
モンシロチョウ	1♀1♂ (◎) 目撃
スズグロシロチョウ	3♂ (①) 目撃
キチョウ	1♀1♂ (①) 目撃
アカシジミ	3exs. (◎) 目撃
ミズイロオナガシジミ	2♀ (◎)
オオミドリシジミ	1♀ (①)
ミドリシジミ	2♀ (B型・O型) 2♂ (①)
ゴイシジミ	1♀ (①) 6exs. 目撃
イチモンジチョウ	1♂ (●) 目撃
コミスジ	1♂ (◎) 目撃
キタテハ	1ex. 目撃
ヒメジャノメ	1♂ (◎) 目撃
ヒカゲチョウ	2♀1♂ (①)
サトキマダラヒカゲ	3exs. (●) 目撃

オオミドリシジミは北本市付近からの初記録と思われるが、採集地は近年宅地化が進んでおり、貴重な記録となる「危険」がある。ミドリシジミ1♀(B型)1♂はケヤマハンノキの樹上で得られた個体であり、近くにハンノキがなかったことから、ケヤマハンノキが食樹となっていた可能性が高い。もっとも、その採集地点から約400m離れたハンノキ林で1♀(O型)1♂が得られ、ハンノキが北本市付近での主要なミドリシジミの食樹であることは間違いなからう。なお、オオチャバネセセリ1♀とアカシジミ1ex.はクリの花で吸蜜していた。

ク リ の 花 で 吸 蜜 し て い た 蝶

巢 瀬 司

1983年6月20日11:00~11:15(くもり)、桶川市川田谷でクリの花  
吸蜜を確認した蝶の記録を報告する。クリの木は12本あり、樹高はそれぞれ  
4m前後で、満開の状態だった。

イチモンジセセリ	1ex.
モンシロチョウ	約30exs.
スジグロシロチョウ	約30exs.
ベニシジミ	1♀
ウラギンスジヒョウモン	1ex.
キタテハ	5exs.
サトキマダラヒカゲ	1ex.

ウラギンスジヒョウモンは新鮮個体であったが、ネットの柄を持って行けな  
かったため、採集できなかった。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

オ オ イ タ ド リ の 花 で 吸 蜜 し て い た 蝶

巢 瀬 司

1982年8月23日14:00~14:10(くもり)、札幌市藻岩山の中腹で、  
オオイトダリの花で吸蜜を確認した蝶の記録を報告する。

エゾスジグロシロチョウ	1♀
ウラゴマダラシジミ	1♀
カラスシジミ	1♀
ベニシジミ	1♀
クロヒカゲ	1♂
ヒメキマダラヒカゲ	3exs.

ほかにはイカリモンガ 2exs. が吸蜜していた。

(〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

## 奥秩父・川又で採集した蛾 (2) メイガ科

松井安俊・松井英子

前報 (松井ら、本誌No.39) にひきつづいて、メイガ科 本県未記録 12 種を含む 30 種につき報告する。リストの記述方法は前報に同じだが、前報で別枠とした 1982-VIII-19 大血川の採集品に記号 C を付してリストに一括した。

## PYRALEDAE メイガ科

## SCOPARIINAE ヤマメイガ亜科

- 1.※(1444) スジボソヤマメイガ *Eudonia microdentalis* (HAMPSON)、  
2♂♂ 2♀♀ B

## PYRAUSTINAE ノメイガ亜科

- 2.(1542) ハナダカノメイガ *Camptomastix hisbonalis* (WALKER)、1♀ B  
3.(1569) マタスジノメイガ *Pagyda quinquelineata* HERING、1ex. A  
4.(1589) シロヒトモンノメイガ *Analthes semitritalis* LEDERER、1♂ B  
5.(1593) クロスジノメイガ *Typanodes striata* (BUTLER)、1♀ B  
6.※(1599) クロフキノメイガ *Nacoleia maculalis* SOUTH、1♀ B  
7.※(1616) クロヘリキノメイガ *Goniorhynchus butyroza* (BUTLER)、2♀♀ B  
8.(1625) ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis* (SCOPOLI)、  
2♀♀ B、1♂2♀♀ C  
9.(1641) タイワンモンキノメイガ *Sylepta taiwanalis* SHIBUYA、1♀ B  
10.(1643) ツチイロノメイガ *S. invalidalis* SOUTH、1♀ C  
11.(1657) クワノメイガ *Glyphodes duplicalis* INOUE, MUNROE & MUTSUURA、  
1♂1♀ B  
12.(1670) ツマグロシロノメイガ *Polythlipta liquidalis* LEECH、1♀ A  
13.(1692) マメノメイガ *Maruca testulalis* (HÜBNER)、1♂ B  
14.(1701) マエキノメイガ *Herpetogramma rudis* (WARREN)、1♀ B  
15.※(1709) キモンウスグロノメイガ *H. magna* (BUTLER)、1♀ B  
16.※(1711) キマダラクロノメイガ *H. ochrimaculalis* (SOUTH)、1♂ B  
17.※(1728) モンシロルリノメイガ *Uresiphita tricolor* (BUTLER)、1♂ C  
18.※(1729) オオモンシロルリノメイガ *U. dissipatalis* (LEDERER)、1♀ C  
19.(1749) ヘリジロキンノメイガ *Paliga auratalis* (WARREN)、1ex. B  
20.(1750) モンスカシキノメイガ *Pseudebulea fentoni* BUTLER、2♂♂1♀ B  
21.※(1754) キイロフチグロノメイガ *Paratalanta taiwanensis* YAMANAKA、  
1♀ C

NYMPHULINAE ミズメイガ亜科

22.※(1811) ゼニガサミズメイガ *Nymphula bifurcalis* WILEMAN、1♀ B

EPIPASCHIINAE フトメイガ亜科

23.(1853) ナカアオフトメイガ *Teliphasa elegans* (BUTLER)、1♂ B

24.※(1856) クロフトメイガ *Termioptycha nigrescens* (WARREN)、2♀♀ B

25.(1867) アオフトメイガ *Orthaga olivacea* (WARREN)、1♂ B

PYRALINAE シマメイガ亜科

26.(1873) トビイロシマメイガ *Hypsopygia regina* (BUTLER)、1♀ B

PHYCITINAE マダラメイガ亜科

27.(1942) ミカドマダラメイガ *Nephoterix mikadella* (RAGONOT)、1♂1♀ B

28.(1961) ツツマダラメイガ *Acrobasis tokiella* (RAGONOT)、1ex. B

29.※(1963) オオトビネマダラメイガ *A. obrutella* (CHRISTOPH)、1ex. B

30.※(2006) ウスアカモンクロマダラメイガ  
*Ceroprepes ophthalmicella* (CHRISTOPH)、2♂♂2♀♀ B

( 註 )

- 1) . データ、A : 1981-Ⅷ-28、B : 1982-Ⅷ-19 とともに奥秩父川又の東大演習林宿舎にて灯火採集。 C : 1982-Ⅷ-19 大血川。
- 2) . 配列は、井上他「日本産蛾類大図鑑」(講談社、1982)の解説に従った。
- 3) . ( ) は、同上の synonymic catalogue の番号、亜種名は省略
- 4) . ※印は埼玉県未記録種。

(〒277 柏市根戸427-5 北柏第2住宅3-102 )

オ オ チ ャ バ ネ セ セ リ の 灯 火 へ の 飛 来  
牧 林 功

1982年9月6日夜、大宮市天沼町の自宅の玄関灯に、オオチャバネセセリ1♂が飛来していた。この種の灯火への飛来記録は散見するが、埼玉県内の例は少ないと思われるので、いちおう報告しておく。

(〒330 大宮市天沼町2-864 )

ヒメキマダラヒカゲの水浴行動の一例

加藤 輝年

筆者は、ヒメキマダラヒカゲ *Harima callipteris* の水浴行動を観察したので報告する。

観察日：1980年7月12日 晴れ

観察地：秩父郡大滝村妙法岳山頂

時刻は午後2時半から3時半頃と思うが確かではない。

林縁で、地上1mくらいの高さを飛んでいた1頭のヒメキマダラヒカゲが、はばたきをやめ、捨てられていたお椀にたまった水（たぶん雨水）をめぐけて“スーッ”と急降下し、水面に接触して飛び立った。そしてその後もお椀の近くを飛びまわり、2、3度この行動をくり返した。しかし、採集するために近づきかけたら、気配を感じたらしく飛び去ってしまい、♀♂は確認できなかった。観察地における本種の発生状況から考えると、7月12日では♂の可能性が強いが、どちらとも言えない。

蝶蛾の水浴の観察例は、大野（1976）がまとめており、その生態的意義は、水浴行動そのものにいくつもの型が認められるのと同様に複雑で、決して単純なものではないらしいとされている。そして、考えられる解釈として、①体温降下、②休息、③水分補給、④水面の光の反射に対する反応などがあげられている。

今回のヒメキマダラヒカゲの例は、水面の光に対する反応であろうと筆者は考えている。これには、縄張り行動や配偶行動の誤った現れが考えられるが、もしそうだとしたら後者ではないだろうか。想像がほとんどだが、いずれにしても、ヒメキマダラヒカゲの配偶行動を含む平常の行動の中に、これを解くカギが隠されているのではないだろうか。

〔文献〕 大野 正男（1976） 蝶蛾の水浴行動，昆虫と自然 11（10）

（〒357 飯能市双柳5/2-3）

埼玉県 の 蝶 に 関 す る 覚 え 書 き ( 6 )

碓 井 徹

(16) 1982年 (昭和57年) の文献目録

- 神久保 美津夫 (1982) 狭山湖でアサギマダラとクモガタヒョウモン  
を記録, 寄せ蛾記 (35) : 342
- 碓井 徹 (1982) 奥秩父中津川溪谷と三国峠の蝶,  
寄せ蛾記 (35) : 343-349
- 神部 正博 (1982) 埼玉県東部におけるアカタテハの記録,  
寄せ蛾記 (35) 352
- (1982) ヒメアカタテハの採集例, 寄せ蛾記 (35) : 353
- 神久保 美津夫 (1982) 雨の日のウラナミアカシジミ,  
寄せ蛾記 (35) : 353-354
- 碓井 徹 (1982) 埼玉県の蝶に関する覚え書き (5),  
寄せ蛾記 (35) : 355-356
- 松井 英子 (1982) 草加市におけるヤマトシジミの越冬,  
寄せ蛾記 (36) : 368-370  
〔訂正 同誌 (37) : 414〕
- 小堀 文彦 (1982) 上尾市でトラフシジミを採集, 寄せ蛾記 (36) : 371
- (1982) 上尾市でミスジチョウを採集, 寄せ蛾記 (36) : 371
- (1982) 上尾市で再びテングチョウを採集,  
寄せ蛾記 (36) : 372
- 神部 正博 (1982) 草加市でムラサキシジミを採集,  
寄せ蛾記 (36) : 373
- 竹内 崇夫 (1982) 近況報告 (2), 寄せ蛾記 (36) : 374
- 荻島 和美 (1982) 与野市にてミヤマカラスアゲハを採集,  
寄せ蛾記 (36) : 374
- 碓井 徹・亀井 義弘・寿原 淑郎 (1982) 奥武蔵と秩父北部での  
5月の蝶, 寄せ蛾記 (36) : 375-377
- 竹内 崇夫 (1982) 川口市のミドリシジミ, 寄せ蛾記 (36) : 377
- 蝶類分布図係 (1982) ウスバシロチョウの記録,  
寄せ蛾記 (36) : 380-382
- 山崎 正則 (1982) ツマジロウラジャノメ第1化の記録,  
寄せ蛾記 (37) : 401
- 赤羽 トモ子 (1982) 宿泊談話会で採集した蝶,  
寄せ蛾記 (37) : 405-408
- 神久保 美津夫 (1982) 狭山湖畔のミスジチョウ, 寄せ蛾記 (37) : 410
- 碓井 徹 (1982) クロコムラサキの採集例, 寄せ蛾記 (38) : 430

- 荻島 和美 (1982) ゴマダラチョウの産卵例について,  
寄せ蛾記 (38) : 436
- 神久保 美津夫 (1982) ムラサキシジミを狭山湖で採集,  
寄せ蛾記 (38) : 437
- 神部 正博 (1982) 川口市におけるトラフシジミの記録,  
寄せ蛾記 (38) : 442
- 荻島 和美 (1982) ギンイチモンジセセリ (読者のフォト)  
インセクトarium 19(3) : 16
- ? (1982) 皆野町誌自然編Ⅲ動物<sup>1)</sup>  
無背唯動物 鱗翅目 I チョウの仲間 pp. 199~255
- 牧林 功 (1982) カラスアゲハ 1969、1970 秩父での記録,<sup>2)</sup>  
カラスアゲハ研究会報告第1報 : 48
- 松井 英子・松井 安俊 (1982) 南関東におけるヒメアカタテハ幼虫の  
越冬例, 月刊むし (136) : 18-19  
〔訂正 同誌 (141) : 34〕
- 神崎 文雄 (1982) 埼玉県北部にてクロノマチョウを採集,  
月刊むし (137) : 31
- 藤原 純 (1982) 奥武蔵におけるスギタニルリシジミの採集記録,  
月刊むし (141) : 27
- 赤羽 トモ子・碓井 徹 (1982) 動植物総合調査会報告〔動物の部〕  
— 棒の峰、奥秩父林道、十文字峠、大山 — ,  
埼玉生物 (22) : 42-43

1) 「皆野町誌自然編Ⅲ動物」は、1982年3月31日 皆野町 の発行。  
各分類別の執筆担当者は明記されていない。また、グラビアの蝶の写真  
の種名には同定の間違ひがある。pp. 199~215では、9科87種の蝶に  
ついて、各種に1つ以上の採集例(採集者名は無し)を付けて生態など  
を紹介している。

2) 「カラスアゲハ研究会報告第一報」は、1982年4月 タカオ・ゼミナール  
カラスアゲハ研究会 の発行。手書きオフ。約50ページ。

(〒362 上尾市壺丁目454-3)

ヒメセアカフルカの出現期

牧林 功

ヒメセアカフルカ (ヒメセアカケバエ) *Penthetria japonica* WIEDEMANN  
(フルカ科) は、大宮市天沼町の自宅の庭に多い昆虫の1種である。

この種の同地における近年の出現期は、以下のとおりである。

1981年 5月2日～5月25日

1982年 4月30日～5月19日

1983年 4月27日～ (不明)

1982年、1983年ともに、5月初旬が最盛期である。

埼玉県内では、皆野町、寄居町に記録がある (埼玉県動物誌 p. 142)。寄居町の記録は1975年4月25日で、もっとも早い記録である。

以上から判断すると、年により変動はあるが、4月下旬から5月下旬までが出現期であるといえる。

(〒330 大宮市天沼町2-864)

マエシロモンキノカワガの最北記録

市川 和夫

本種の幼虫はアラカシにつき、沖縄から本州の太平洋側房総半島までの常緑カシ林を分布範囲としているという (杉 繁郎, 1982、ヤガ科, 井上 寛ほか、日本産蛾類大図鑑 I : 795) が、本県において新鮮な個体を採集したので報告する。

*Nycteola costalis* SUGI マエシロモンキノカワガ

採集地 埼玉入間郡日高町久保 (巾着田)

採集日 1983年6月11日

採集個体 新鮮な1♂、青色誘蛾灯に飛来したものを筆者が採集、保存。近隣の和田山麓にはアラカシが自生し、同日夕方方に多数のムラサキシジミ雌雄の羽化個体を目撃している。

(〒336 浦和市南本町2-7-11)

吾野駅付近でウラクロシジミの生息地

加藤 輝年

飯能市内にはウラクロシジミ *Iratsume orsedice* の産地が点在するが、西武線吾野駅付近でも生息地を見つけたので報告する。

飯能市吾野駅付近 (標高 200 m)

1983年5月1日

終令幼虫2頭 (マンサクより採集)

この生息地は、筆者の旧住所から (なんと) 歩いて約 10 分の所にあり、以前にも調べたことがあったが、その時はウラクロシジミは見つからなかった。今春、別件で訪れた際、気にかかっていたので調べなおしたところ幼虫が見つかった。しかし、ここは個人所有の狭い雑木林で、個体数も非常に少ないので、これ以上人為が加わると生息が危ぶまれる。

(〒357 飯能市双柳 5/2-3)

XXXXXXXXXXXX

訂 正

XXXXXXXXXXXX

前号№39は、編集子のタイプ・ミスによる誤字脱字がかなりあり、原稿をお寄せ下さった方々には申しわけなく思います。ここに、紙面をお借りしておわび申し上げるとともに、以下のように訂正をしたいと思います。

以下、すべて本誌№39 中の訂正箇所です。

- ◎ 埼玉県ノヤガ科 (VII) pp.445-449 並木 彬雄  
p.445の3行目に次の文を挿入 「番号に付した※は埼玉県未記録種」
- ◎ アキアカネの移動についての共同調査の提案 p.450 新井 裕  
下から2行目 マーキングズ ⇨ マーキング
- ◎ 狭山丘陵の昆虫調査実施計画 pp.457-458 神久保 美津夫  
p.457 下から3行目 (短かい山道が ⇨ (短かい参道が
- ◎ アオマツムシの古い記録 p.460  
執筆者名 巢野 司 ⇨ 巢瀬 司
- ◎ 埼玉県蝶類分布資料 (I) pp.462-468 蝶類分布図係  
p.464 中央あたり 与野市八王寺 ⇨ 与野市八王字  
p.465 下から4行目 // 荒川土手 ⇨ // 中川土手
- ◎ p.472 上から7行目 ことあり、 ⇨ ことでもあり、
- ◎ p.474 下から9~8行目 相像以上に ⇨ 想像以上に